

# 東京2020大会に向けた第2回ストックヤード実証実験(大井)実施結果について

## 実証実験概要

- 実験期間：令和元年12月16日～令和2年1月31日
- 設置場所：大田区東海四丁目1番7号
- 利用時間：24時間利用可能
- 利用料金：無料
- 駐車区画：186区画
- 運用ルール 平日15時時点で「実入コンテナ積載シャーシ」を駐車  
(15時までに搬入した実入コンテナ積載シャーシは18時まで搬出不可)  
15時時点で駐車した「実入コンテナ積載シャーシ」は18時から翌8時までに搬出



<実施状況>



<位置図>

## 申込・利用状況分析

- 募集区画186区画に対して、54社280区画の申込があり、**約1.5倍の応募率**（第1回実証実験時は約1.6倍の応募率）
- 第2回実証実験においては、実施場所や運用ルールの変更を行ったことで**第1回実証実験参加者以外からの申込は約4割**であった。
- 営業所所在地も東京都以外の企業が約5割を占めており、第1回実証実験時に引き続き他県からも多くの企業が利用している。

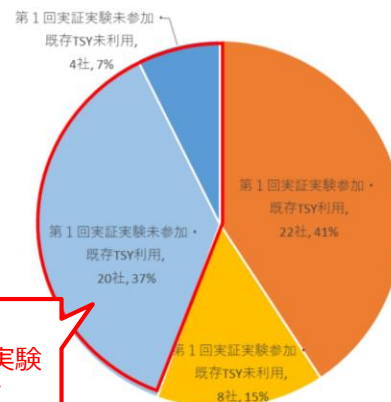
### <申込状況>

	企業数	区画数
募集	—	186
申込	54	280
決定	54	186

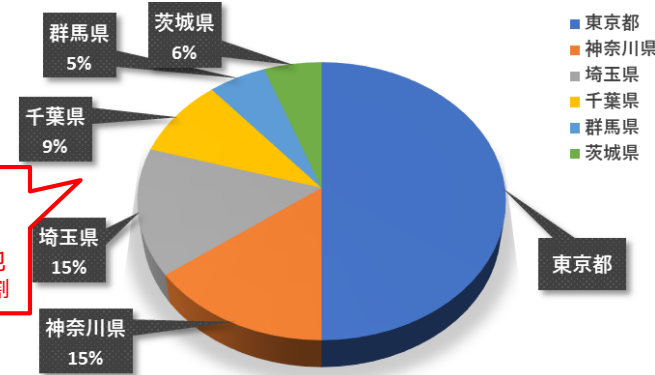
約1.5倍の  
応募率

約4割が  
第1回実証実験  
未参加者

### <申込企業の内訳>



### <利用企業営業所所在地>



約5割が  
東京以外の  
営業所所在地  
※第1回は約4割

# 第2回ストックヤード実証実験アンケート等の分析

※アンケート回答社数:27社

## 1 186区画に対する利用率は、実験期間中（平均72%の利用率）

平均で72%の利用率

- 取組の早期周知や長期間の利用区画の割当等に伴い、**利用率は約72%に向上**（第1回実証実験：56.4%の利用率）。
- 一方、常設の東京港ストックヤードは日貸しのためほぼ100%の利用率であり、比較すると**一定割合で未利用区画が発生**している。
- その理由として事前に区画を割り当てることに伴い、日によって区画の需要が変動することが要因（常設は4日前までに申込）  
⇒ 大会時には**直前の需要の変動にも対応できる仕組みが必要**である。

### <第2回ストックヤード利用率>

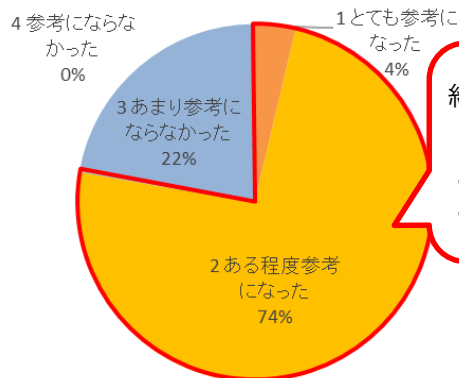
	12月・1月	16日	17日	18日	19日	20日	23日	24日	25日	26日	27日	6日	7日	8日	9日	10日	14日	15日	16日	17日	20日	21日	22日	23日	24日	27日	28日	29日	30日	31日	平均
15時時点の 駐車台数	140	142	131	133	118	138	143	141	139	121	142	152	141	133	135	139	124	123	131	138	141	131	128	132	130	143	128	115	134		
利用率	75%	76%	70%	72%	63%	74%	77%	76%	75%	65%	76%	82%	76%	72%	73%	75%	75%	67%	66%	70%	74%	76%	70%	69%	71%	70%	77%	69%	62%	72%	

## 2 東京2020大会時に向けたトライアルの場として実証実験を評価

- 自社が東京2020大会時に配送業務等を検討していくための『参考になった』と利用社の約8割が評価した。
- 大会時にストックヤードを増設した場合に利用するかに対し、アンケート回答全社が「利用する予定」・「検討中」と回答した。  
⇒ 後述する運用ルール等に対しては各社ごとに意見があるものの、総論としては実証実験の取組を評価している声が多い。

Q：自社が東京2020大会時の配送業務等を検討していくための参考となったか？

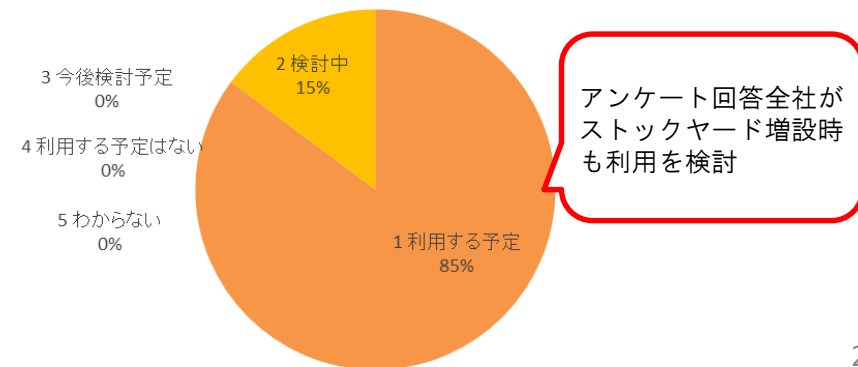
Q：東京2020大会時にストックヤードを増設した場合、利用するか？



約8割が「参考になった」と評価した

#### 【主な意見】

- ・ストックヤードを活用して配送を実施・確認
- ・夜間・早朝配送における課題の確認 など

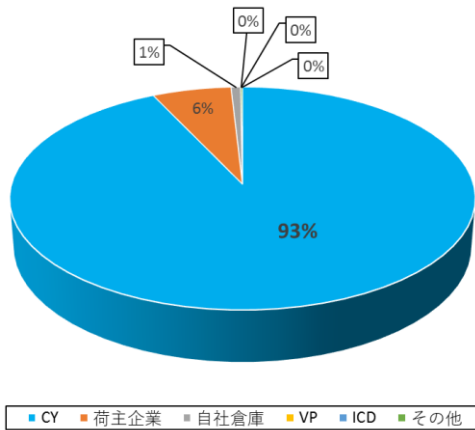


アンケート回答全社が  
ストックヤード増設時  
も利用を検討

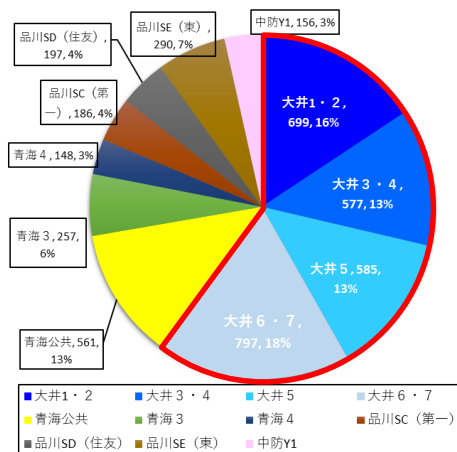
### 3 スtockヤードの利用状況分析 (Stockヤードへの搬入)

- 実証実験期間中に搬入された実入コンテナ積載シャーシのうち、約93%がコンテナヤードから搬入されている。
- コンテナヤード別搬入元内訳のうち、約60%が大井埠頭からの搬入となっている。  
※第1回実証実験時(城南島地区)の際も大井埠頭からの搬入は約60%を占めた。
- 近隣コンテナヤードからStockヤードに搬入することが運送事業者の基本的な利用方法であることが想定される。  
⇒ 各埠頭周辺にStockヤードを設置することで、更なる利用台数増加が見込まれる。

<施設別実入コンテナ積載シャーシ搬入元>



<コンテナヤード別搬入元内訳>

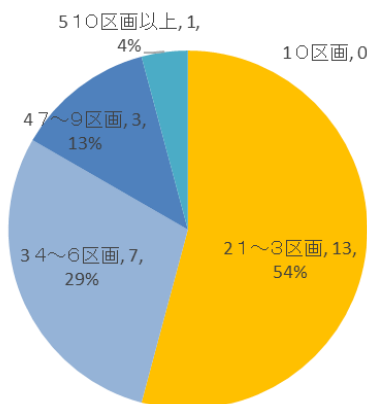


・大井地区に設置したStockヤードのため、約6割が大井埠頭からの搬入

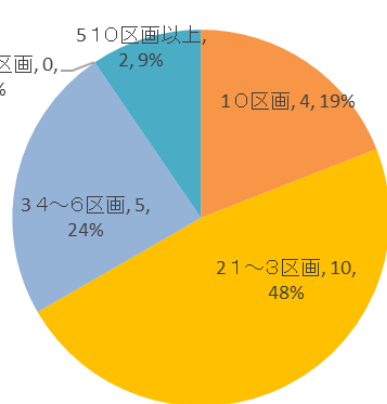
各埠頭周辺のStockヤードにもそれぞれ利用予定区画へのニーズがあり

### <アンケートにおける大会時の利用予定区画>

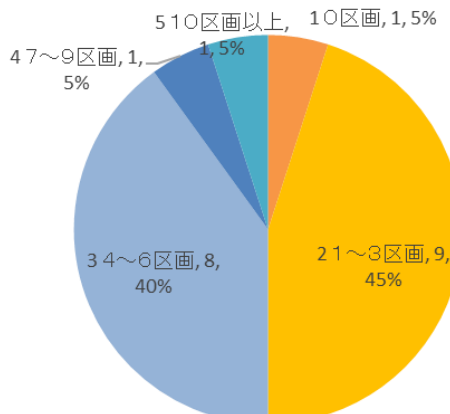
<大井地区の利用予定区画>



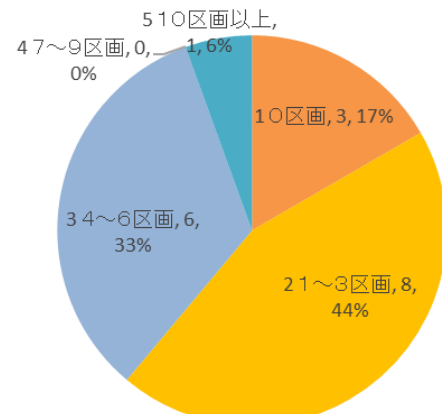
<城南島地区の利用予定区画>



<青海地区の利用予定区画>



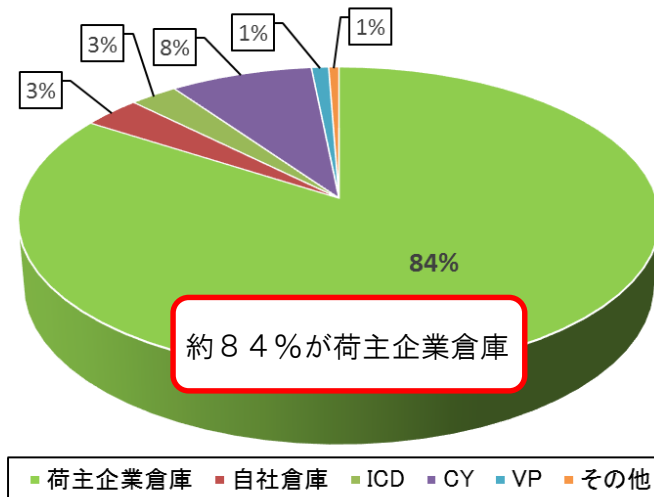
<中央防波堤外側地区の利用予定区画>



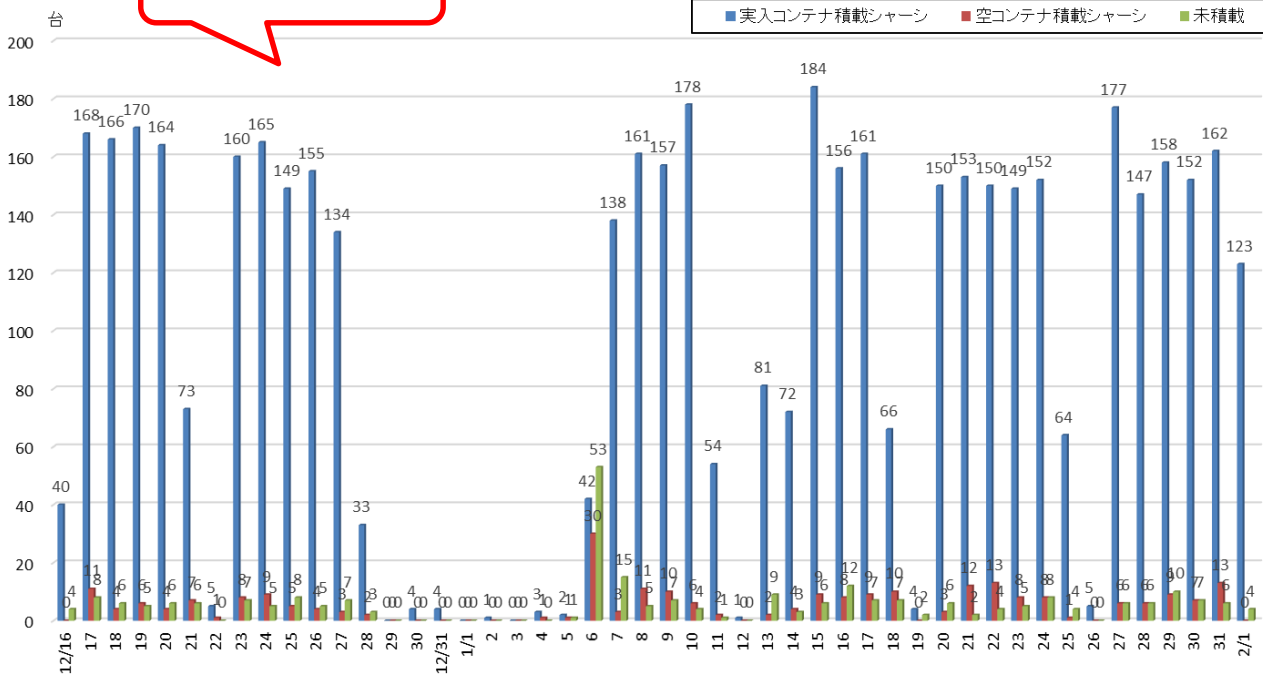
## 4 スtockヤード利用分析 (ストックヤードからの搬出)

- 実証実験期間中ストックヤードは、実入コンテナ積載シャーシ4,793台、空コンテナ積載シャーシ256台、コンテナ未積載シャーシ270台の**合計5,319台の利用**があった。
- 今回の実証実験では主に輸入貨物を対象としたルールであったことから、**約84%の貨物がストックヤードから荷主企業に向けて搬出**された。
- また、地域別内訳では主に**埼玉県・千葉県・東京都**で約8割を占めている。  
⇒ 運送事業者は各都県への到着時間を逆算した上でストックヤードから搬出している。

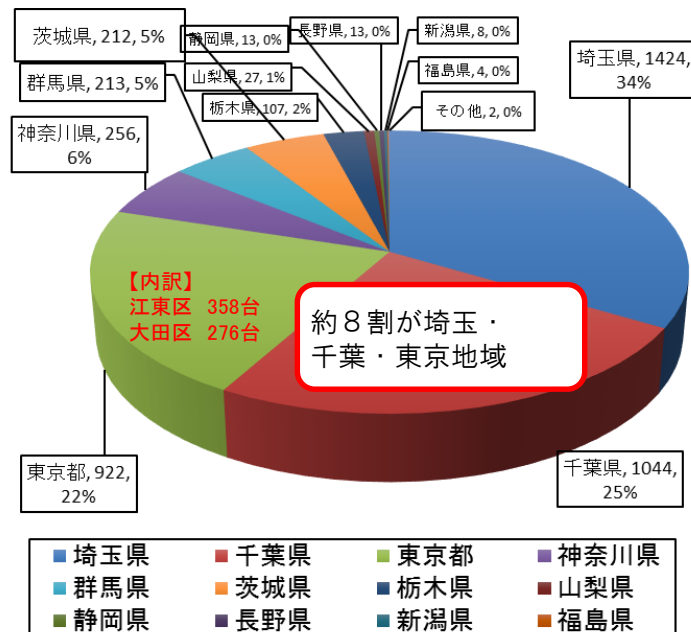
＜ストックヤード搬出先施設別内訳＞



＜搬出日別利用状況＞

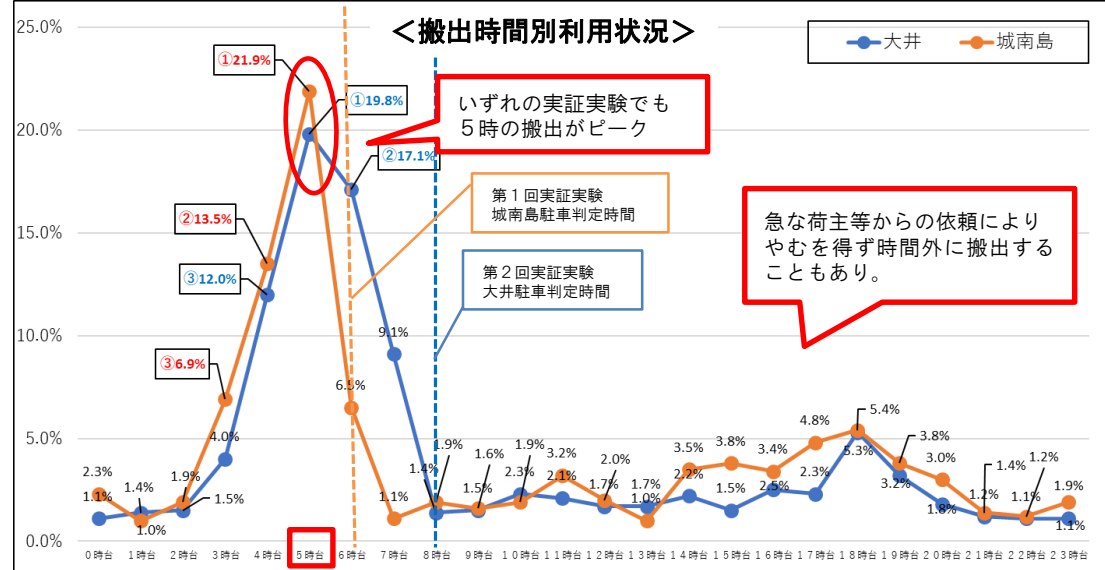
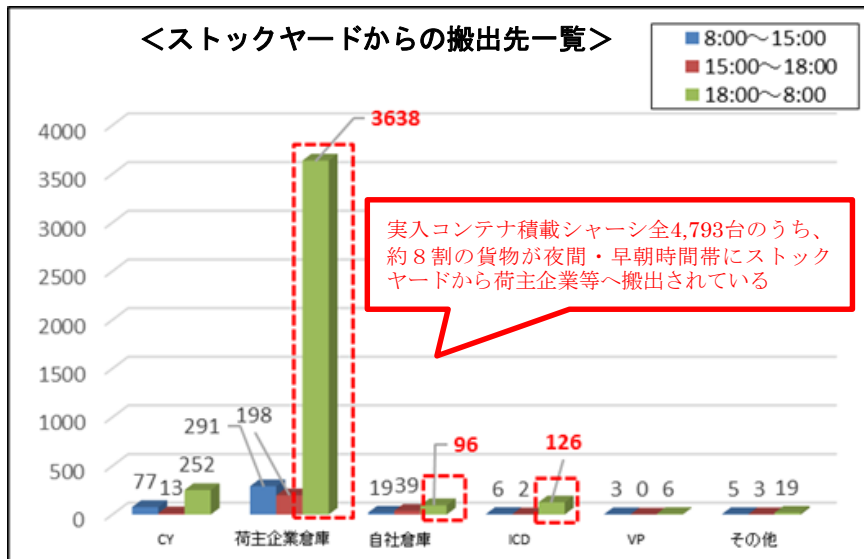
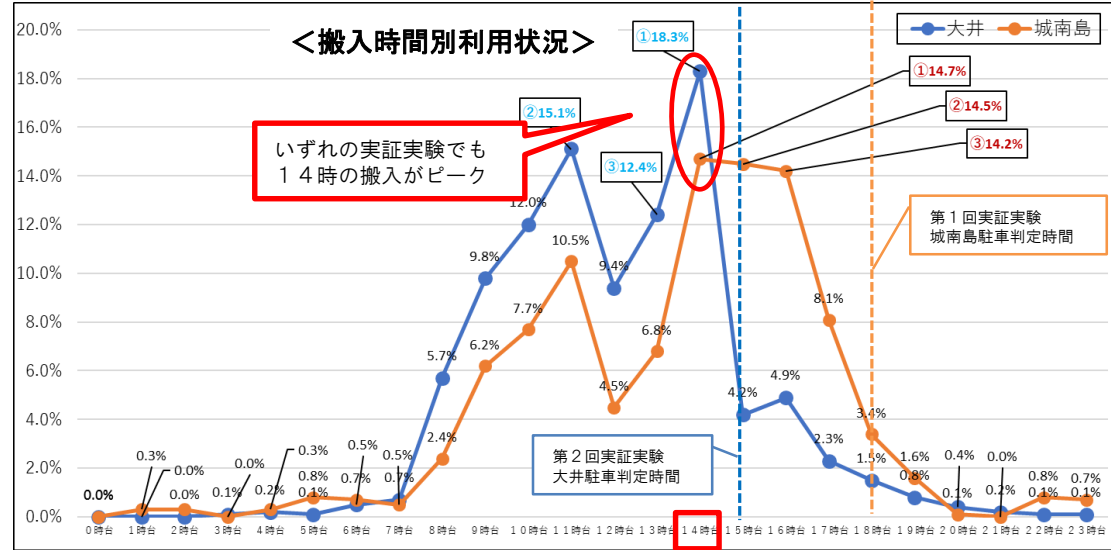
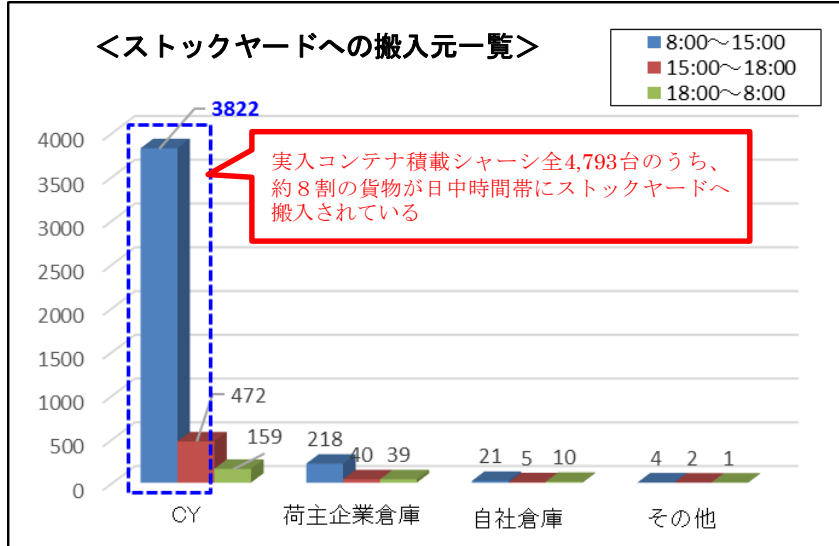


＜ストックヤード搬出先地域別内訳＞



## 5 スtockヤード搬出入時間帯の分析

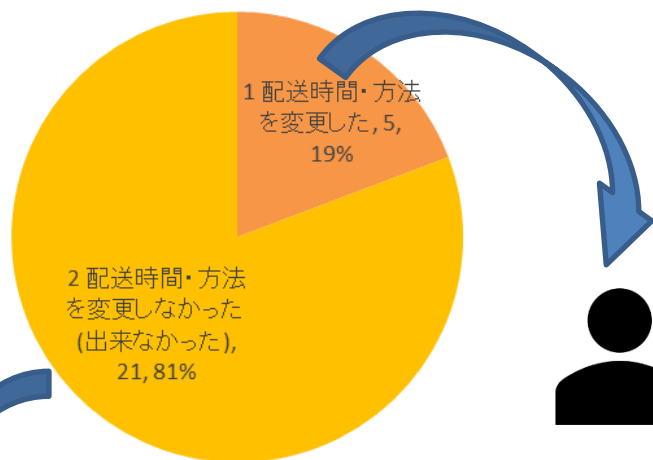
- 約8割の貨物が日中時間帯にコンテナヤードから搬入されており、第1回実験時と同様に搬入時間帯は14時台の搬入がピークであった。
  - 一方、搬出も約8割の貨物が夜間・早朝の時間帯にStockヤードから搬出され、搬出時間帯も5時台がピークとなった。
- ⇒ 運用ルールの設定により一定量の貨物が日中の交通混雑時間を避けた配送を行っていることがみられた。



## 6 配送時間・方法の変更状況（変更できた企業は約2割）

- 配送時間・方法を変更できた企業は約2割程度と、多くの企業が配送時間・方法の変更しなかった（出来なかった）と回答
- 一方、変更しなかった（出来なかった）理由を見ると、元々夜間・早朝配送を実施しているため変更しなかった企業以外にも**荷主等の協議がつかなかった**場合や、**運転手等の体制が確保できなかった**ことが理由に出来なかった企業が**約4割程度**を占めている。

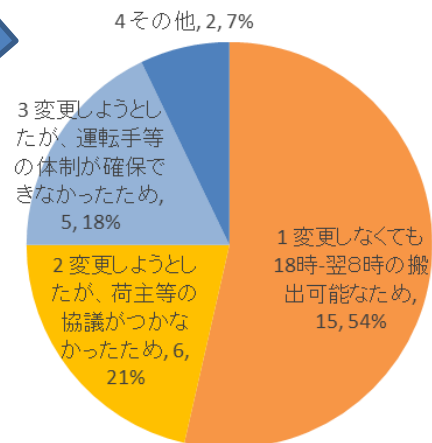
Q：今回の大井ストックヤードを利用するにあたり、**配送時間・方法を変更しましたか？**



【配送時間・方法を変更した利用社の声】

- ・ 配送目的地によりドライバーを選択してからストックヤードに搬入するよう心掛けた。
  - ・ 東京2020大会を想定して配送の貨物以外にも仮置きして他の業務にあたり、翌朝8時までの搬出などを行えたことが良い経験となった。
  - ・ 競技会場予定地近くのシャープールを避ける運用の試行をした。
- ※概ね出来た：3社、たびたび出来なかった：2社

Q：配送時間・方法を変更しなかった（出来なかった）理由は何ですか？



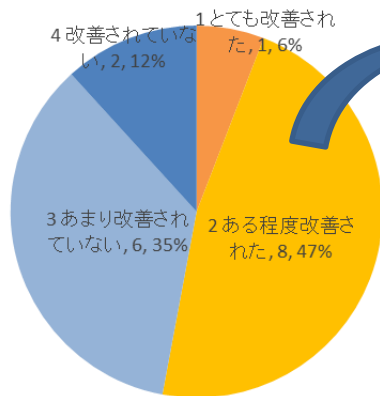
【配送時間等に関する利用者の声】

- ・ 五輪に伴うTDMという認識がまだ浸透していないので配送時間の変更は難しい。
- ・ 配送時間の変更は、お客様との兼ね合いがあり、難しく感じた。
- ・ 夜間早朝の搬入をできるだけ多くしようとしても、荷主・納品先の理解と協力が必要。

## 7 運用ルールの変更状況（約5割が第1回実証実験より運用ルール等が改善と回答）

- 第1回実証実験からストックヤードの運用ルール等が改善したと利用者の約5割以上が回答した。
- スtockヤードからの搬出時間が伸びたことを評価する声がある一方、運用ルール等に引き続き改善を求める声があった。

Q：今回の実証実験は第1回実証実験と比較し、運用ルール等は改善されましたか？



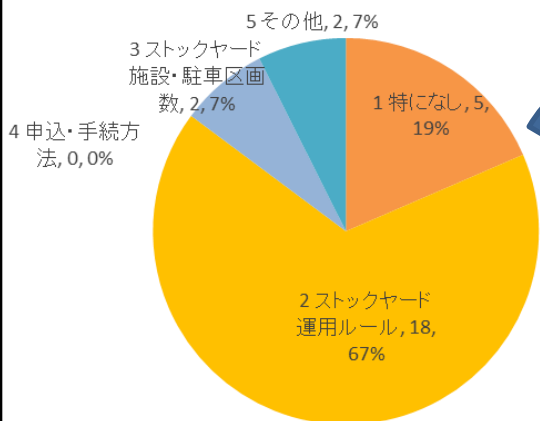
【利用者の声】

- ・ 第1回実証実験よりストックヤードからの搬出時間が2時間伸びたため、利用しやすくなった。
- ・ 今回のほうが場所が良かった。大井で搬出入する際近くで良かった。
- ・ 駐車判定時間が前倒しとなったことがあまり改善されていない。

## 8 実証実験における改善点（改善すべき点は「運用ルール」との指摘が約6割以上）

- 利用者の約6割以上からストックヤードの運用ルールに関する改善すべき点と答えた。
- 運用ルールについては「**時間的制約の撤廃**」や「**駐車判定時の種別拡充**」などが挙げられたほか、「**区画数拡大**」なども要望があった。

Q：今回の実証実験で改善すべき点は？



【利用者の声】

- ・ 駐車ルールが15時であるとヤード混雑時に間に合わないで遅くしてほしい。
- ・ 時間的制約をやめて、24時間入出庫可能にしていきたい。
- ・ 翌朝8時の完全出庫の撤廃。混雑する日がわかっているのであれば、その日を避けた配送も検討するため、複数日蔵置を認めてほしい。
- ・ 現ルールでは15時以降に置いておけるのは実入コンテナのみだが、空コンテナも可としてもらえると配車がしやすい。
- ・ 駐車区画数を増やしてほしい。

## 9 これまでの実証実験を踏まえた検討

- 東京2020大会時におけるTDMの実効性をあげるためには、時間緩和を求める声があったとしても一定のルール設定は必要である。
- 一方、要望の強かった搬出入時間の見直しについては、混雑する競技日程等を避けた配送等を可能とするために**翌朝8時完全出庫のルールを撤廃し、複数日蔵置を可能とする。**
- さらに、ストックヤードの幅広い利用を促進するため駐車判定時の対象種別に**空テナ積載シャーシ**を追加する。
- 加えて、直前の貨物動向にも対応できるよう**1日単位での利用枠を一定程度設定**し、利用者の利便性を向上させる。
- 荷主も含めてストックヤードの取組等に理解を得られるよう、配送時間・方法の変更に向けた協力を幅広く周知していく。

## 10 大会時におけるストックヤードの実施について

◆ 大会時の交通混雑緩和に向け、夏と年末年始に実施した実証実験を踏まえて、ストックヤードの運用ルール等を決定

- 設置期間：令和2年7月1日～令和2年9月30日
- 募集開始：令和2年4月1日（予定）
- 実施規模：大井地区・城南島地区・青海地区・中央防波堤外側地区の合計約600台
  - 【城南島地区・青海地区・中央防波堤外側地】：実施期間単位（期間貸し）
  - 【大井地区】：1日単位（都度貸し）※日々の需要の変動に対応
- 運用ルール：平日15時時点で「実入テナ積載シャーシ」または「空テナ積載シャーシ」を駐車  
15時時点で駐車した「テナ積載シャーシ」は18時以降に搬出（大井地区のみ翌朝8時完全出庫）  
（15時までに搬入した「テナ積載シャーシ」は18時まで搬出不可）

